

太宰府梅ばやし隊

梅上げ行事の先頭に行く「お囃子隊」は、初老、還暦を迎える人たちの家族や知り合いなどで行われていましたが、太宰府市外のグループを招いて、お囃子隊をつくり、町内を練り歩くこともありました。

そこで、市内で三味線やお囃子を永年続けている人たちから「太宰府の伝統行事である梅上げだから、太宰府在住の三味線・お囃子をしている人たちで続けたい。」という声があがり、50数名が集まって、平成24年(2012)2月「太宰府梅ばやし隊」が発足しました。

それからは、ボランティアでお囃子を行い、梅上げ行事を支えています。

今後とも、太宰府特有の伝統行事である梅上げ行事がいつまでも続いていくように、太宰府梅ばやし隊として、太宰府の伝統文化の育成及び継承活動に貢献していきます。



<活動内容>

- ・ 三味線愛好家、お囃子愛好家の育成、技能の向上に努め、太宰府伝統の文化としての梅上げを盛り上げていく。
- ・ 梅上げ行事の記録を集める活動。



太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・人・出来事。これを将来に伝えていきたいと思う物語と、守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切なんだと納得したものです。

太宰府市民遺産(太宰府市景観・市民遺産会議で認められた宝)

= 守り・育てたいモノ + 守り・育てたいモノが歩んできた物語 + 守り・育てたい「ちから(活動)」

【「ちから(活動)」の源となる物語(思い)】



■例えば

- まちづくりの基礎をつくりあげた人
- 四王寺山の堂々たる姿が見える場所
- いつもお詣りしているお地蔵さん
- 道ばたにある、むかしの道標
- 40年つづく団地の夏まつり

など、未来に伝えたい太宰府の個性がたくさんあります。



太宰府市民遺産ロゴマーク
http://市民遺産.jp

太宰府の梅上げ行事

太宰府市民遺産: 第10号

認定: 平成27年2月21日

景観・市民遺産育成団体: 太宰府梅ばやし隊

発行: 太宰府市景観・市民遺産会議

(公財)古都太宰府保存協会

発行日: 平成27年7月18日



平成27年度文化庁文化芸術振興費補助金
(文化遺産を活かした地域活性化事業)



太宰府市民遺産

第10号

太宰府の梅上げ行事



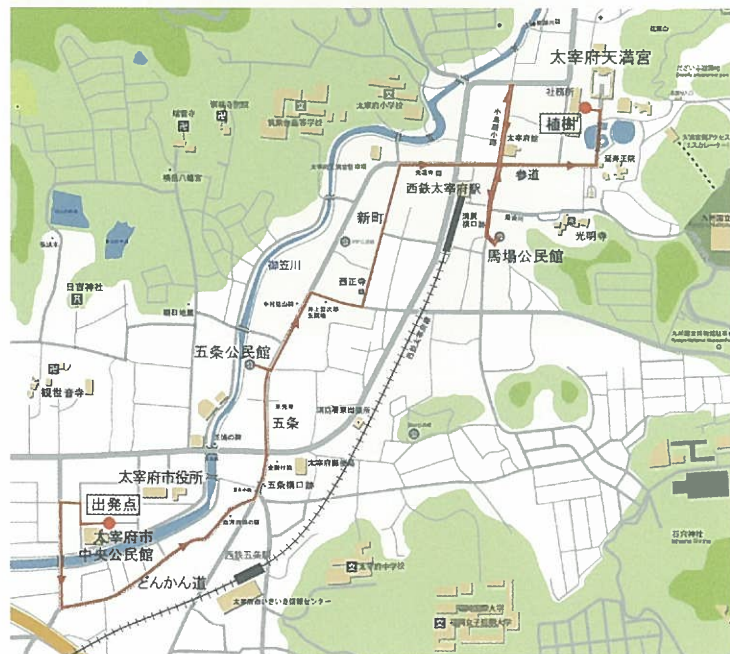
太宰府梅ばやし隊

梅上げとは

梅上げとは、初老を迎える男性(40歳)、還暦を迎える男女(60歳)が、それぞれ厄払いとして太宰府天満宮に梅の木を奉納する行事で、献梅行事ともいいます。

梅上げ行事は近年、3月の第1土曜日に還暦が、3月の第3日曜日に初老が行うことが多いのですが、その時々で実施日やコース、進め方を決めるため、世代によって全く異なることがあります。

平成27年に行われた還暦の梅上げの場合、午前中に太宰府天満宮でお祓いを受け、昼から中央公民館で出発式を行い、午後1時頃に出発しました。行列は、三味線・鉦・太鼓のお囃子隊、厄年の人々と続きますが、途中の五条公民館からは、梅の木を曳いた牛が合流しました。人々は両手に持つ杓子を打ち、紅白の餅を沿道の人々に配りながら練り歩き、沿道の家々や参道の店舗の人たちは、酒やつまみなどで還暦の方を接待し、祝います。厄年の人々は餅を沿道の人たちに配ることで厄落としとなると言われています。そして、太宰府天満宮に到着した一行は、牛が曳いてきた梅を境内に植樹します。なお、翌年春には竈門神社に献木する「紅葉上げ」を行います。



梅上げの道順(平成27年・還暦)

午後1時に出発した行列は、約3.3kmの道のりを休憩をはさみながら、約2時間半をかけて太宰府天満宮に到着しました。

梅上げ(献梅行事)の由来

この「梅上げ」がいつ始まったのか明確な時期はわかっていません。しかし、その始まるきっかけは、明治35年(1902)に行われた太宰府天満宮菅原道真公御神忌一千年大祭に遡ると言われています。

一つには、菅公一千年大祭の4月1日に、博多の高砂連600余人が太宰府の街中を練り歩いて天満宮に参拝したということです。4月13日には、福岡博多の福博都保美会が博多どんたく松囃子の傘鉦を先頭に、資産家の10歳から20歳未満の娘たち114人で列を整えて、五条口から五条、新町、大町、参道を練り歩いて天満宮に参拝しました。これらは太宰府の人たちの心に残り強く印象づけられたようです。

二つ目に、この時に梅いっぱい運動が行われたことです。一千年祭事業として、東神苑と北神苑を整備され、境内では梅を植樹する事業が行われました。

このような流れの中で、太宰府六町の人たちが、初老・還暦の祝い行事を、六町はもちろん、太宰府小学校同窓生と一緒にいき、天満宮に梅の木を奉納する「梅上げ(献梅行事)」を始めたのではないかと考えられます。

その行事形態も、かつて一千年大祭の高砂連や福博都保美会が行ったような三味線や太鼓を打ちながら、町中を練り歩く姿から、さらに厄払いの紅白の餅を配りながら、梅の木を天満宮に奉納するという現在のような姿に次第に整えられていったと考えられます。



▲ 昭和4年初老梅上げ



◀ 昭和25年水城村の献梅風景



昭和43年還暦の梅上げ出発風景(五条付近)



連歌屋から三条へ進む行列(昭和43年・還暦)



参道を進む行列(平成27年・還暦)



梅の植樹(平成27年・初老)



お接待(平成27年・還暦)



餅まき(平成27年・初老)

梅上げの運営

梅上げ行事は、初老や還暦を迎える方々自らが発起人となり、実行委員会等を組織し実施・運営しています。参加記念品や記念手ぬぐいに趣向を凝らしたり、梅上げの行事の記念写真を卒業アルバムのようにしたりと、その年々で工夫があり、献梅以外の部分は独自のやり方となっています。よって、行列の出発場所もコースも様々です。

当初、太宰府小学校の同窓生や太宰府在住、市内勤務の同年の方を中心に行なわれていた梅上げは、今では、近郊の人々にも幅広く参加が呼びかけられています。梅上げに参加するのを楽しみに、東京や大阪など遠方から、帰省する人も少なくありません。

初老・還暦の梅上げ行事については、参加希望の方を毎年広く受け付けています。